



平成 25 年 8 月 2 日 第 3 巻(第 8 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害支援チーム TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

***目次

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子
3. ピーチサロンに参加して
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 事務所感想文

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。

皆さま、ぜひご購入のうえ

ご覧ください！！



詳細は、

“3. 災害支援チームからのお知らせ”を
ご参照ください。

*** 1. 協力員として参加して ***

活動期間:2013年 7月16日~7月18日
水溜丹都子(兵庫県 神戸赤十字病院)

感想:

協力員活動としては、2年ぶりの石巻でした。街並みなどの景色に、被災の爪痕のまだまだ大きいところと一見すれば普通の生活に見えるところがあり、その差異もまた被災地の厳しさであると感じました。お会いしお話を聞かせて頂いた被災者の方々の穏やかな口調や表情に癒されつつ、現実を受け入れようとされているご様子に、まだまだ支援が必要であることを実感しました。また、真摯に一生懸命に自身の立場や役割に向き合われている3人の現地職員の方々の姿勢と思いに、感動しました。この3日間のすべてに感謝しつつ、私自身もその立場と役割にしっかり向き合わねば、と思っています。

*** 2. 石巻での活動の様子 ***

*** 7/19 久保木 美由紀 (現地担当)

復興座談会参加:復興期の課題を、住民、自治体関係者、支援者間で共有し、今後の生活設計やコミュニティへの参画を適切に支援していくことが確認された。このような取り組みが、各仮設住宅単位で行われていくと、より理解が深まると思う。

仮設住宅自治連合会参加:「復興公営住宅の概要、事前登録について」復興支援課の方より説明あり。約200名程の参加者あり、質疑応答も活発に行われ、関心の高さが伺えた。約1000戸/4000戸(目標)が建設計画が立てられた。手続きの方法や揃える書類等が様々な理由により困難な方がいると予測されるため、その部分の支援が必要。

サポートチーム活動:十三浜 住民の方と集落訪問 音楽会のチラシを配布しながら十三浜 住民の方と集落訪問 復興の状況や近況の情報交換に同席 (相川、小指、大指他)

NPO 法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長と打ち合わせ

中里サポートセンター 海藤氏来所 久保木 MSW と懇談

*** 7/22 久保木 美由紀 (現地担当)

中高年の男性を対象としたイベント(RCIとの協働):社会参加に向けイベントを企画。参加者 2 名。天候が悪く参加者少なかったが来てよかったとの声あり。次の企画について参加者からの提案も頂き、次回開催に向けて検討を続けていきたい。

*** 7/23 久保木 美由紀 (現地担当)

仮設住宅を訪問しての相談活動:生活上のストレスについて傾聴を行う。次回訪問時には経済的支援から就労支援に至るまでの支援を行う事を希望され確認しました。

*** 7/24 久保木 美由紀 (現地担当)

RCI との勉強会:今回より RCI メンバーに加え他 2 団体の方参加。「働きやすいチーム作り」をテーマに講義。

引きこもりの子を持つ親の会への参加

エリアミーティングへ参加:ケースについての情報共有と検討会を開催する。

*** 7/25 久保木 美由紀 (現地担当)

仮設住宅を訪問しての相談活動:経済的問題についての支援を中心に活動を行っております。

*** 3. ピーチサロンに参加して ***

7 月 6 日(土)桃生地区の中津山団地仮設集会所で行われた「にこにこ交流会」に参加しました。

この仮設ではピーチサロンと名付けて毎月、集会を開いています。

今回はチームももというメンバーが主催し、七夕飾りや短冊づくり、流しそうめんのイベントを実施されていました。

『チームもも』は石巻市社会福祉協議会の職員、桃生支所の保健師、社会福祉協議会の訪問支援員、あがらいん、からころステーション、ものう地域包括支援センター、せんだんの杜ものう、

め組 JAPAN といったメンバーで構成されたチームです。

私たちが到着した時、仮設のリーダーや社協の訪問支援員さんが住民さんの誘い出しを行っておられました。一緒に同行させて欲しいとお願ひしましたが、「知らない顔の人が行っても相手が警戒するから。」と断られました。この地域は、当協会が関わっているケースがない地域ということもあり、当協会がどういった事を行う団体かという事が、十分に理解してもらえていないように感じました。

イベントでは住民の方と支援者が一緒に運営し、楽しんでいる姿が見受けられました。しかし、その場に参加する方は仮設の住民の中でもごく一部です。声掛けをしても出て来ない、または来られない人がいます。

既存のチームで関わっている地域に新たに支援に入る場合、地域の住民さんはもちろん、その支援者側にも受け入れて理解してもらえないと繋がらないのが現状です。共有するケースがない場合は今回のようなイベントを通し、団体を知ってもらい、ネットワークを構築していく必要があります。

一足飛びにはいかないですが、支援が必要な方をどのように発見し、支援に繋げていくのか、が大きな課題です。団体として信頼を得るには普段の業務をコツコツと繋ぎ、当協会が介入して良かったと住民の方にはもちろん、周りの支援者にも理解していただかないといけません。生活の問題を抱えている人に出会った時、「日本医療社会福祉協会へ」と思ってもらえるよう、地道な活動が必要だと感じる事ができたイベントでした。



～ ピーチサロンの様子 ～



*** 3. 災害支援チームからのお知らせ ***

【1. 協力員募集】

*** 現 地

現在、1日あたり上限 2 ～ 3名で募集しております。
中3日以上、なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

*** 事務所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。
ご協力をお願い致します。

【2. 災害支援チーム会議日程及び講演会開催のお知らせ】

①会議開催／予定

開催 7月20日(土) 13:00～15:00 於協会会議室
次回予定 9月29日(日) 13:00～15:00 於協会会議室

②災害支援チーム主催の講演会予定

日 程：2013年10月19日(土) 10:00 ～ 16:00
会 場：トーシン信濃町駅前ビル5階 ホール2
参加費：5000円

★詳細は後日このページに掲載致します。

【3.書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。

ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【4.facebook】



facebookでも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

*** 4. 事務所感想文 ***

*** 7/29 原 靖子（災害支援チーム事務所）

協会のホームページで事務ボランティアの記事を見て、月 1 回でもよいとのことでしたので、思い切って連絡をしてみました。担当の金子さんから「様子を見るだけでも」と言っていただき、現地との連絡、ボランティア希望の方との調整、ホームページ更新等大切な業務であると実感しました。

*** 7/29 金子 小夜子（災害支援チーム事務所）

雨のなか、本日、原さんがボランティアで来て下さいました。日報を中心に見て、編集して頂きました。また来て頂けるとうれしいです。

<編集後記>

記録的な豪雨によって被害に遭われた皆様、その後ご様子は如何でしょうか？こうした災害の様子を目の当たりにするたびに人間の作れるものの限界を感じずにられません。しかしながら、その一方、協力して困難に立ち向かう姿にはいつも感動を覚えます。被害に遭われた皆様の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

（編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同）

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 8 月 2 日 第 3 卷 8 号
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会